



挨拶する藤平正夫会長

平成六年度通常総会 九十周年記念事業として 「マカルー登山隊一九九五」遠征なども

平成六年度通常総会は五月二十一日東京・千代田区大手町のJABビル内国際会議室で開かれた。

この通常総会には会員一八八名が出席。議案①平成五年四月一日～平成六年三月三十一日事業報告および収支決算、財産目録承認の件 ②平成六年度事業計画(案)および収支予算(案)承認の件 ③平成六年度除籍予定者の件 ④その他として(ア)日本山岳会マカルー登山隊一九九五遠征の件 (イ)九十周年記念式典開催と地方支部ブロック別の件 (ウ)合同募金について、慎重審議を行い、いずれもこれを原案どおり可決、承認した。

■特筆すべき青森支部の設立

議案審議に先立ち、小倉茂暉総務担当常務理事から、三月末現在の会員数は五、二六四名、委任状二、五二六名で、出席者を併せ定款第三十三条に基づき三分の一定数一、七五五名を上回り、総会成立の報告がなされた。

同理事から現況報告、物故会員の氏名朗読があり、黙禱のあと、挨拶に立った藤平正夫会長は、大要次のように述べた。

「会長に就任以来、大上段に構えたのはいいが、形が整っていない。今年度は九十周年事業としての記念式典、マカルー登山隊遠征や、組織改正で形を整えたい。

ふり返って特筆すべきことは、青森支部の設立だ。五月二十八日に行われる青森ウエストーン祭は、山登りに端を

発したわけではなく、明治三十六年の大凶作のおり、ウエストンの救済活動により約七千人が救助され、新郷村が今日あるのはこのおかげであると、ウエストーンを徳とし、顕彰のお祭りをしようという特異のケースだ。

ソウルで開かれた日韓登山フォーラムは、韓国も熱心な運営ぶりで将来期待が持てる。

四月十八日から六日間、『台湾交流登山団』として訪台した。両国には長い交流があったにもかかわらず、日本山岳会としては何らアクションをとらなかった。はからずも今回初の公式訪問となった。参加者四十名で、二班に分かれ雪山と合歓山に登った。蔡禮榮中華民國山岳協會会長以下関係各位に、至れり尽くせりのサービスを受け、感謝している。

両国の往来は自由になっているので、



1994 年(平成 6 年)

7 月号 (No. 590)

社団法人 日本山岳会

The Japanese Alpine Club

定価一部 150 円

目 次

平成 6 年度通常総会	1
自然保護随想	3
総会関係報告	
平成 5 年度事業報告	4
収支決算書	5
正味財産増減計算書	5
貸借対照表	6
財産目録	6
平成 6 年度事業計画(案)	8
収支予算(案)	9
新入会員/住所変更	10
書籍受入報告	11
報告	
「山の自然を考える」	12
森林観察	13
平成 6 年度支部長会議	13
東西南北	
ヘディンの世界・西藏縦断の旅	14
俳句・雪山	16
会務報告	16
INFORMATION	18
ルーム日誌/会員異動	19

▶日本山岳会事務取扱時間

月、火、木、土曜 10時～20時
水、金曜 13時～20時

日曜・祭日は休み

▶図書室開室時間

日曜・祭日・月曜を除く毎日
13時～20時

▶事務局夏休み 8月15日～20日

▶ルーム閉鎖 7月16日～9月4日

今後とも、いっそう交流の充実を図りたい」

総会出席のため来日した蔡禮樂委員は会長指名を受け「両国の登山はこんなに盛んになっており、今後とも交流を深めていきたい。訪台大歓迎です」と挨拶。

■日本山岳会は健全財政

藤平会長が議長席に着き、議案審議では、小倉理事の事業報告(別掲)のあと、大倉昌身財務担当理事から収支決算、財産目録(別掲)について詳細な説明がなされた。

それによると平成五年度の収入は、予算額六〇八七万円に対し、決算額一億三七五七万二二三二円で、七六七〇万二二三二円の黒字、これは山研改策に伴う「日本自転車振興会」補助金、「環境事業団地球環境基金」助成金や九三パーセントの納入率となった通常会費収入、山岳総索引、チョモランマ写真集などの刊行物売り上げ収入、JACグッズなどその他の事業収入、テレホンカード販売、山研ご祝儀などの雑収入の増大による。

一方、支出面では予算額六九七四万円に対し決算額一億四一〇三万〇一四四円で、八〇二九万〇一四四円の増。山研改策に伴う松本土建への支払い、自然保護専門委員会への調査研究費、

JACグッズ頒布品立替によるその他事業費、図書専門職員採用による給料・手当てや山研関係備品購入のための什器備品費、新たに賃借するサンビュウハイツ一〇四号室関係の雑費などに支出増があったものの、他項目については概ね微増程度で、収支とも前年度比五〇〇万円増の規模となっている。財産目録は資産合計三億八三五四万〇八七六円、負債合計五七一万四九三〇円、差引正味財産三億七七八三万五九四六円。

これに関し中島伊平監事より、平成五年度の収支計算書、正味財産増減決算書、貸借対照表および財産目録を監査し、正確妥当なことを認めるとの報告が行われた。

■本年度の事業計画、収支予算を承認

平成六年度事業計画案(別掲)および収支予算案(別掲)についても小倉大倉両理事から説明が行われた。

事業計画の主なものは現地講習会、上高地の環境保全と自然エネルギーを考える(六月)、第十二回講習、上高地、横尾、槍沢の氷河地形と植物を調べる(同)、関西支部主管の全国支部懇談会(十月)、第二回青年登山集会(二月)などの集会、マカール峰登山研究会(六月)、シンポジウム・登山における疲労(十一月)、資料講演会

(同)など。

これに対する予算は、金利低下による受取利息減を見込みながら、通常会費収入、JACグッズ頒布によるその他事業収入増を想定し六三〇七万円に一方支出では図書専門職員採用による給料・手当て、図書室パソコンリース料、印刷機器リース料などのその他管理費、郵便料値上げによる通信運搬費などの増加を見込み六八七六万七〇〇〇円に定められた。

なお、大倉理事からは、厳しい財政だが、経費節減により会員サービスに務める旨、決意表明があった。

■九十周年記念事業について

その他、(ア)日本山岳会マカール登山隊一九九五遠征の件については、重廣恒夫常任評議員が説明に立った。

配布された計画書によると、世界第五位(八四六三メートル)のマカール峰東稜(チベット側)からポーラメソッドによる初登攀で、すでに昨年八月、チベット登山協会の許可を得ている。期間は偵察が明年二月中旬から三月中旬。本隊は同三月中旬から五月下旬だが、経費の点からも偵察隊は本隊と継続。隊の構成は藤平正夫総隊長、重廣恒夫隊長、山本宗彦登攀隊長が決定。登攀隊員十名に現在十六名が応募中。登山隊派遣の趣旨は、日本山岳会が広

く若い人たちの、厳しい自然環境を持つ高峰への憧憬を喚起するとともに、これまでのヒマラヤ登山の精神を引き継ぎ、次世代を担う人々の今後の新たな発展の画期とすることを目指している。収支予算は六一〇〇万円。

(イ)九十周年記念式典開催と地方支部ブロック別の件については小倉理事から、記念式典は八十周年記念式典スタイルを踏襲することとし、当時の会員数三、五〇〇名が五、二〇〇余名に膨れ上がっていることや、年次晩餐会会場の限度が六五〇名であることなどを勘案、①北海道、②青森、岩手、秋田、山形、宮城、福島 ③本部 ④信濃、山梨、静岡(越後を加えるか、あるいは越後は②とするか) ⑤東海 ⑥京都、岐阜 ⑦富山、石川、福井 ⑧関西(山陰を加えるか、あるいは山陰を⑥とするか) ⑨福岡、東九州、熊本、宮崎、の九ブロックに分け、多くの会員に参加してもらう。すでに九州ブロックでは平成七年六月に、東北ブロックは同年九月中に盛岡で、本部は同年十月十四日の実施が内定しており、各ブロックとも平成八年二月までに終えたい。

これらのことも含め記念事業委員会(委員長・中村純二副会長)を設置し、九十年史刊行は見送り、百年史のスタートとする。新たに映像による百年史

第30回 観光週間

8月1日～10日

実施目標

1. 観光道徳の高揚
 2. 観光地の美化
- 総務委員会

も企画、それぞれの委員会を設置する。前者は望月達夫、織内信彦両名誉会員、松丸秀夫会員、南井英弘図書担当理事を中心に、後者についてはフィルムビデオ委員会の山口俊輔理事、羽田栄治委員長が担当する。データバンクとして、百周年に向けて小委員会を設け、調査研究を進め、基となる資料の集め方などを検討する。

(ウ)合同募金については、後援援助金は望み薄であり、会員各位の絶大な協力をお願いしたいし、節約して効果的な九十周年記念事業としたい旨述べられた。

また、中川武総務集合理事から前記一〇四号室賃借について「現ルームに移って十八年、会員増、委員会活動などによるスペース不足に加え、諸設備の老朽化などから、リースとして出一〇四号室を五月一日より賃借した。現会室のリフォームもあり、リフォームした。

ム委員会を設け、七月下旬から八月下旬にかけて全面改装に着手、九月からは装い新たな姿をお目にかけることができる」と報告があった。

■質疑応答後は懇親会に

質疑応答では石田稔郎会員から、①北アでの外国人登山者のゴミ放置問題②四月十七日のシンポジウム「山の自然保護を考える」後の丹沢観察山行の成果について質問があり、①については藤平会長より「日山協の斎藤会長と密接に対応を協議しており、単に旅行者者に注意を喚起するだけでは十分」②については大森弘一郎自然保護担当理事より「観察山行に限り、丹沢のブナの立ち枯れは酸性雨によるものか、あるいは寿命によるものかなど判断する段階にない」との応答があった。これにより議案審議はすべて終わり、山口俊輔、中川武の両氏が議事録に署名した。

続いて席を改めて懇親会が開かれ、織内信彦名誉会員が「この一年間、役員、各委員会委員のお骨折りに会員の一人として感謝いたします。今後益々の会の発展とマカール峰挑戦の成功、会員各位の発展を祈ります」と乾杯音頭をとり、なごやかな懇親会の場に移した。

(文・高田真哉 写真・小倉厚)

自然保護随想

里山と藪山の 自然保護

関塚貞亨

旧聞になるが、四月十六日に秦野市文化会館で自然保護シンポジウムを開いたとき、人集めのために渋沢丘陵のハイキングをして、会場に送りこもう、ということになり、実行委員数人で下見をした。

自然保護シンポジウムや座談会で「登山をすることが自然を破壊している」とか、これに類する意見が定番といっているほど、必ず出る。真意は「山へ登る人は自然に対して謙虚に、慎重に行動してもらいたい」という意味だ、と解っているが、その言い方に鋭さがありすぎると、心の中で「そんなにいうなら、お前さんは山に登るな」と、ブツブツつぶやいている。

尾瀬の菖蒲平や立山の室堂平を例にあげるまでもなく、高山や湿原では、一旦破壊されると、復元するのは難しい。だから、このご意見はご尤もで、反対する気はまったくないが、南関東の里山や、温暖な地方で、厳冬でも根雪が残らないような低い藪山では、雑木林や気分のよい草原で、草の上に座って昼食を食うぐら

いの楽しみは、問題ないと考えている。温暖な低山では、野草の復元力は、その程度で駄目になるほど弱いものではなからう。

さて当日、せいぜい三、四十人だろうと思っていた参加者が、秦野駅前に一三〇人も集まった。春霞のコーイスは鶯が鳴き、雑木林の下には、スマイレ、タンポポが咲き、よい気分だった。「あの昼食は自然破壊だ」と文句が出た。パネリストの自然保護協会の森先生が「里山は問題ない」と助け船をくださった。有り難い。雑木林では、来春もスマイレがたくさん咲くだろう。

- 12月17日 プラブーツ突然破壊4団体協議会(日山協, HAT, 芳山, JAC) (遭難対策)
- 1月15~17日 八方尾根親睦山行(集会) 八方尾根
- 1月8日 山の自然学第4回講座(自然保護専門) 国民生活センター
- 1月12日 立教大学チョモロンゾ報告会(青年, 学生) 本会
- 1月12日 第1回マカルー峰登山小委員会 本会
- 1月15日 山の自然学実習(自然保護専門) 木曾駒
- 1月17日 プラブーツ突然破壊4団体協議会(日山協, HAT, 芳山, JAC) (遭難対策)
- 1月21日 16mmフィルム映写会(フォトビデオ) 本会
- 1月26日 テーピング講習会(医療, 集会) 麴町集会所
- 1月30日 山の自然学第5回講習(自然保護専門) 秋川丘陵
- 2月5日 第2回マカルー峰小委員会 本会
- 2月5~6日 アイスクライミング講習会(学生指導) ハヶ岳
- 2月15日 ヒマラヤジャーナル編集長来日歓迎レセプション(海外) 本会
- 2月16日 プラブーツ突然破壊4団体協議会(日山協, HAT, 芳山, JAC) (遭難対策)
- 2月17~20日 山の自然学第6回講習(自然保護専門) 屋久島
- 2月21日 チベットの登山協会代表来日歓迎レセプション(海外, 高所) 原宿
- 2月25日 山の自然学第7回講習(自然保護専門) 国民生活センター
- 2月25日 第22回山岳史懇談会「もう一つの登山史—陸地測量部」(図書) 本会
- 2月26~27日 日本山岳会青年登山懇談会(青年, 総務, 集会, 学生, 指導) 八王子
- 3月2日 第3回マカルー峰小委員会 本会
- 3月7日 第4回マカルー峰小委員会 本会
- 3月12日 オリエンテーション(総務) 食糧会館
- 3月14日 第5回マカルー峰小委員会 本会
- 3月25日 第25回山岳図書を語る夕べ「地図を使った風景スケッチ入門」(図書) 本会
- 3月26~28日 山スキー講習会 妙高火打
- (ロ) 研究会
- 7月7日 マカルー山群のチベット側研究会
- 8月4日 キルギスタン天山山脈研究会
- 2月2日 マカルー峰東稜研究会
- 4月~3月 隔月: レスキュー研究会
- (ハ) シンポジウム
- 4月10日 丹沢シンポジウム 青山
- 5月21~22日 第13回日本登山医学シンポジウム(医療) 宮城勤労総合福祉センター
2. 登山施設, その他登山のための適切な事業
- ・上高地山岳研究所の資料室, 展示室, 宿泊施設等の活用
 - ・山に関する貴重なフィルム, スライド, テープ, アルバム等の補修及び複製その他貴重な資料の収集, 整備, 管理
3. 山岳遭難の予防とその対策に関する企画及び指導
4. 自然保護活動の推進
- 8月1~30日 自然保護活動の実践
- 10月~3月 鳥海山保護対策
5. 機関紙等の発行
- ・「山岳」第88号(1993年)号の発行
 - ・会報「山」第575号~586号の発行
6. 国内および外国山岳団体との連絡, 情報交換
- ・国内関係団体(日山協, 都岳連, HAT-J その他)との密接な連絡
 - ・海外登山団体との機関誌
7. 海外登山
- ・第4次マッキンリー気象観測機器設置登山の実施
8. その他目的を達成するために必要な事業
- ・山岳図書の拡充をはかる
 - ・その他目的を達成するために必要な事業を行う

日本山岳会 平成5年度事業報告

(5.4.1~6.3.31)

1. 登山の指導と奨励に必要な集会, 研究会, 講習会および展覧会の開催

(イ) 集会

- 4月7日 アンタークテックウォーク南極隊報告会(青年) 本会
- 4月18日 さくらハイイク(総務) 多峰主山
- 5月7日 マカルー峰登山隊報告会(青年) 本会
- 5月14日 国際山岳連盟会長歓迎レセプション(海外)
- 5月15日 支部長会議(総務) コーブビル
- 5月15日 定例総会(総務) "
- 5月21~23日 富士山合宿(青年) 富士山
- 5月22~23日 若葉会山行 岩岳山
- 6月2日 マッキンリー隊壮行会(青年, 学生) 本会
- 6月5~6日 谷川岳合宿(青年, 学生) 谷川岳
- 6月12~13日 霧降高原撮影会(フォトビデオ) 日光
- 中央アルプス撮影会(フォトビデオ) 宝剣
- 6月17日 小川山岩登り講習会(青年) 小川山
- 7月6日 第1回高所登山研究委員会 本会
- 7月14~15日 全国山岳遭難対策協議会に参加 新潟
- 7月23日 OB懇談会(青年, 学生) 本会
- 8月8日 キルギスタン共和国アカーエフ大統領と会見(海外, 青年)
- 8月29日 空撮による登山道周辺の破壊(自然保護専門) 北ア上空
- 9月1日 ガッシャブルム2峰報告会(青年) 本会
- 9月4日 ビールパーティー 本会
- 9月11日 プラブーツ突然破壊4団体協議会(日山協, HAT, 芳山, JAC) (遭難対策)
- 9月11~12日 全国集会(自然保護) 戸倉
- 10月2~3日 山の自然学第1回講習(自然保護専門) 木曾駒
- 10月3日 観察山行(自然保護) 高尾山
- 10月5日 プラブーツ突然破壊4団体協議会(日山協, HAT, 芳山, JAC) (遭難対策)
- 10月6日 キルギスタン天山山脈踏査隊報告会(青年) 本会
- 10月16日 新入会員歓迎会(総務) 都市センターホール
- 10月23~24日 全国支部大会(総務) 山梨
- 10月28日 第1回山のシリーズ「山岳図書 古本屋の舞台裏」(図書) 本会
- 11月1日 プラブーツ突然破壊4団体協議会(日山協, HAT, 芳山, JAC) (遭難対策)
- 11月8日 学生部加盟校監督会議(青年, 学生) 本会
- 11月11日 講習会: 火山を読む(集会) アルカディア
- 11月14日 観察山行(自然保護) 武甲山
- 11月14日 資料講演会(資料) 本会
- 11月16日 医療委員会(医療) 国際観光
- 11月16~29日 写真展(フォトビデオ) 三省堂ギャラリー
- 11月24日 テーピング講習会(集会) 一番出張所
- 11月26日 フリークライミング講習会(学生指導)
- 11月24日 テーピング講習会(医療, 集会) 麴町集会所
- 11月28日 山の自然学第2回講習(自然保護専門) 国民生活センター
- 12月3日 第2回高所登山委員会(立教大学チョモロンゾ登山隊) 本会
- 12月4日 支部長会議(総務) 新高輪
- 12月4日 年次晩餐会(総務) プリンズホテル
- 12月5日 懇親山行(集会) 弘法山
- 12月10日 台湾交流打ち合わせ会(海外) 本会
- 12月12日 山の自然学第3回講習(自然保護専門) 三頭山

収 支 計 算 書

平成5年4月1日から平成6年3月31日まで

文具・消耗品費	250,000	306,360	△	56,360
印刷・製本費	1,500,000	1,651,174	△	151,174
旅費・交通費	1,600,000	2,825,222	△	1,225,222
通信・運搬費	1,200,000	1,392,297	△	192,297
保 險 料	430,000	403,210		26,790
修 繕 費	2,200,000	119,305		2,080,695
租 税 公 課	600,000	469,080		130,920
光熱水料費	450,000	514,670	△	64,670
電 話 料	400,000	399,138		862
会 議 費	200,000	329,260	△	129,260
什器備品費	350,000	8,159,544	△	7,809,544
振替手数料	300,000	299,810		190
支部運営費	3,500,000	3,557,500	△	57,500
福利厚生費	160,000	180,554	△	20,554
事務所管理費	750,000	711,164		38,836
その他の管理費	1,120,000	1,784,539	△	664,539
負 担 金	135,000	75,000		60,000
賃 借 料	0	300,000	△	300,000
雑 費	600,000	3,379,556	△	2,779,556
管理費計	23,245,000	38,311,283	△	15,066,283
3. 固定資産取得支出				
什器備品購入支出	0	780,000	△	780,000
建設仮勘定支出	0	54,000,000	△	54,000,000
固定資産取得支出計	0	54,780,000	△	54,780,000
4. 敷金・保証金支出				
敷 金 支 出	0	300,000	△	300,000
5. 特定預金支出				
図書出版研究基金支出	0	120,000	△	120,000
長期計画積立金支出	3,000,000	4,720,000	△	1,720,000
終身会費積立金支出	0	670,000	△	670,000
退職金給与引当預金支出	0	0		0
特定預金支出計	3,000,000	5,510,000	△	2,510,000
6. 予 備 費				
予 備 費	1,500,000	0		1,500,000
当期支出合計 (C)	60,740,000	141,030,144	△	80,290,144
当期収支差額 (A)-(C)	130,000	△ 3,457,812		3,587,812
次期繰越収支差額 (B)-(C)	34,696,328	31,108,516		3,587,812

(注) 1. 長期計画積立金支出 No. 815 中川喜久雄会員寄附金を含む ￥1,000,000.-

科 目	予算額	決算額	差 異	備考
I. 収入の部				
1. 基本財産運用収入				
基本財産利息収入	400,000	348,355		51,645
2. 会費・入会金収入				
入 会 金 収 入	4,050,000	4,590,000	△	540,000
復活会費収入	0	210,000	△	210,000
通常会費収入	43,000,000	46,532,000	△	3,532,000
終身会費収入	0	670,000	△	670,000
会費・入会金収入計	47,050,000	52,002,000	△	4,952,000
3. 事業収入				
広告料収入	1,500,000	1,392,661		107,339
印 税 収 入	20,000	13,649		6,351
刊行物売上収入	800,000	1,926,524	△	1,126,524
その他事業収入	3,000,000	4,965,650	△	1,965,650
山研使用料収入	2,700,000	2,460,462		239,538
事業収入計	8,020,000	10,758,946	△	2,738,946
4. 補助金等収入				
補助金収入	0	63,413,000	△	63,413,000 (注)1
5. 寄付金収入				
寄付金収入	0	1,000,000	△	1,000,000 (注)2
募 金 収 入	0	4,115,000	△	4,115,000 (注)3
寄付金収入計	0	5,115,000	△	5,115,000
6. 雑収入				
受取利息	5,000,000	4,465,550		534,450
雑 収 入	400,000	1,469,481	△	1,069,481
雑収入計	5,400,000	5,935,031	△	535,031
7. 特定預金取崩収入				
退職給与積立金取崩収入	0	0		0
当期収入合計(A)	60,870,000	137,572,332	△	76,702,332
前期繰越収入差額	34,566,328	34,566,328		0
収 入 合 計(B)	95,436,328	172,138,660		76,702,332

(注) 1. 「日本自転車振興会」補助金 ￥59,913,000.-

「環境事業団 地球環境基金」助成金 ￥3,500,000.-

(注) 2. No. 815 中川喜久雄会員寄附 ￥1,000,000.-

(注) 3. 合同募金追加収入 平成5年4月1日～平成6年3月31日

正味財産増減計算書

平成5年3月31日～6年3月31日

科 目	金	額
I. 増加の部		
1. 資産増加額		
図書出版研究基金	120,000	
長期計画積立金	4,720,000	
終身会費積立金	670,000	
建設仮勘定	54,000,000	
什器・備品	780,000	
棚卸資産	1,271,765	
建物建設額	118,000,000	
敷 金	300,000	179,861,765
増加額合計		179,861,765
II. 減少の部		
1. 資産減少額		
当期収支差額	3,457,812	
什器・備品	213,564	
建設仮勘定	118,000,000	121,671,376
減少額合計		121,671,376
当期正味財産増加額		58,190,389
前期繰越正味財産額		319,635,557
期末正味財産合計額		377,825,946

科 目	予算額	決算額	差 異	備考
II. 支出の部				
1. 事業費				
出 版 費	11,480,000	12,888,732	△	1,408,732
図書管理費	805,000	1,035,495	△	230,495
調査研究費	1,295,000	4,753,636	△	3,458,636
指 導 費	965,000	826,232	△	138,768
支部関係費	4,000,000	4,103,088	△	103,088
海外諸関係費	250,000	238,867		11,133
山岳研究所運営費	2,900,000	2,880,407		19,593
海外登山補助金	3,000,000	2,500,000		500,000
その他事業費	3,000,000	7,678,763	△	4,678,763
印刷・製本費	1,000,000	987,374		12,626
通信運搬費	4,300,000	4,236,267		63,733
事業費計	32,995,000	42,128,861	△	9,133,861
2. 運営管理費				
給料・手当	7,500,000	11,453,900	△	3,953,900

貸 借 対 照 表

平成6年3月31日現在

2. 基本財産の増減及びその残高は、次のとおりである。

科 目	前期末残高	当期増加	当期減少	当期末残高
貸付信託 (三井)	2,380,000	0	0	2,380,000
〃 (日本)	420,000	0	0	420,000
〃 (中央)	5,200,000	0	0	5,200,000
合 計 (基本金)	8,000,000	0	0	8,000,000

3. 次期繰越収支差額の内容は、次のとおりである。

科 目	前期末残高	当期末残高	備 考
現 金 預 金	33,080,202	29,041,446	
未 収 会 費	3,225,000	3,117,000	
合 計	36,305,202	32,158,446	
前 受 会 費	174,000	200,000	
預 り 金	1,564,874	849,930	
合 計	1,738,874	1,049,930	
次期繰越収支差額	34,566,328	31,108,516	

4. 固定資産の取得価額、減価償却累計額及び当期末残高は、次のとおりである。

科 目	取得価額	減価償却累計額	当期末残高
建 物	144,423,000	0	144,423,000
什 器 備 品	6,180,232	0	6,180,232
合 計	150,603,232	0	150,603,232

財 産 目 録

平成6年3月31日現在

科 目	金	額
[1] 資産の部		
1. 流動資産		
現金預金		
現金 現金手許有高	432,605	
振替預金		
東京地方貯金局	721,939	
普通預金		
あさひ銀行市ヶ谷支店	5,657,802	
三菱銀行市ヶ谷支店	105,383	
三和銀行本郷支店	41,702	
中央信託銀行本店	9,202	
三井信託銀行新宿西口支店	54,329	
日本信託銀行本店	18,484	
定期預金		
あさひ銀行市ヶ谷支店	22,000,000	
未収会費 330名分	3,117,000	
棚卸資産注1	4,637,028	
流動資産合計		36,795,474
2. 固定資産		
(1) 基本財産		
貸付信託		
三井信託銀行本店	2,380,000	
日本信託銀行本店	420,000	
中央信託銀行本店	5,200,000	
基本財産合計	8,000,000	
(2) その他固定資産注2		

科 目	金	額
[1] 資産の部		
1. 流動資産		
現金	432,605	
振替貯金	721,939	
普通預金	5,886,902	
定期預金	22,000,000	
未収会費	3,117,000	
棚卸資産	4,637,028	
流動資産合計		36,795,474
2. 固定資産		
基本財産		
貸付信託	8,000,000	
基本財産合計	8,000,000	
その他固定資産		
土地	46,297,170	
建物	144,423,000	
建設仮勘定	0	
什器備品	6,180,232	
敷金	300,000	
図書出版研究基金	4,740,000	
長期計画積立金	35,970,000	
海外登山基金	89,110,000	
終身会費積立金	7,060,000	
退職給与引当預金	4,665,000	
その他固定資産合計	338,745,402	
固定資産合計		346,745,402
資産合計		383,540,876
[2] 負債の部		
1. 流動負債		
前受会費	200,000	
預り金	849,930	
流動負債合計		1,049,930
2. 固定負債		
退職給与引当金	4,665,000	
固定負債合計		4,665,000
負債合計		5,714,930
[3] 正味財産の部		
正味財産		377,825,946
(うち基本金)		8,000,000
(当期正味財産増加額)		58,190,389
負債及び正味財産合計		383,540,876

計算書類に対する注記

1. 重要な会計方針

- (1) 有価証券の評価規準及び評価方法について
基本財産の貸付信託は、総平均法による原価基準を採用している。
- (2) 固定資産の減価償却について
建物及び什器備品の減価償却は行っていない。
- (3) 引当金の計上基準について
退職給与引当金は期末退職給与の要支給額の139%に相当する額を計上している。
- (4) 資金の範囲について
資金の範囲には、現金預金、未収会費、前受会費及び預り金を含めている。なお、前期末及び当期末残高は、下記3に記載のとおりである。

閲覧用テーブル (木製 2台)	53. 9.28	250,000	図書室
ライティングビューロー (木製)	54. 6.23	280,300	図書室
フィルム収納キャビネット (スチール製品)	56. 8. 8	254,000	図書室
図書カード容器 (木製 3段)	56. 9.12	200,000	図書室
書 棚 (木製 2段)	56.12.22	500,000	図書室
16 mm 映写機 16-CL (MO)	61. 5.13	156,000	図書室
MS パウチ H-140	61.10.17	95,000	事務所
東芝パーソナルワープロ WJ-R 70 F II	62. 3.12	89,000	事務所
木製書架ガラス戸付(2台)	62. 9.24	700,000	図書室
シャープ液晶ビジョーニ式	2. 7.19	587,932	事務所
世界対応 VTR 001 NWV	4. 5.11	250,000	談話室
小型気象ファクシミリ JAX-9	4.10.19	320,000	事務所
ナショナル冷凍冷蔵庫 NR-041 VP 2-H	5. 3.20	250,000	山 研
ナショナル 29 インチテレビ TH-29 VS 35	5. 3.20	280,000	山 研
ナショナル BS 付ビデオ HV-BS 50 S	5. 3.20	250,000	山 研
合 計		6,180,232	

財産目録記載外のその他物品リスト (主として受贈品)

1. 図 書

種 類	摘 要	冊 数
和 書	平成5年度 受入冊数 103 冊	8813 冊
洋 書	平成5年度 受入冊数 116 冊	3147 冊

2. 絵 画

題 名	種類、号数	作 者 名	掲載、保管場所
白 馬 岳	油 A-50	中村清太郎	大町山岳博物館
富 士 山 麓	油 A-25	茨木猪之吉	河口湖町立美術館
田代沼の白樺	油変形-6	中村清太郎	談 話 室
群 狼	墨 絵	石井 鶴三	図 書 室
伊豆半島	油 - 10	茨木猪之吉	松本アルプス山岳館
針の木峠	油 - 10	茨木猪之吉	図 書 室
徳本峠から穂高連峰	墨 絵	石田 吟松	松本アルプス山岳館
初冬の両神山	油 - 10	茨木猪之吉	図 書 室
鳥 (カット原画)	墨 絵	石井 鶴三	図 書 室
メールドグラス	エッチング		図 書 室
モンブラン	エッチング		松本アルプス山岳館
カンチェンジュンガ	エッチング	シュラーギ ントワイト	図 書 室
ユングフラウ	油	山里 寿男	集 会 室
潤沢より北穂高	水彩 -6	山里 寿男	松本アルプス山岳館
槍ヶ岳初夏	油 - 10	中村清太郎	集 会 室
カンチェンジュンガ	パステル	矢崎千代二	談 話 室
北穂高滝谷	油 - 25	足立源一郎	談 話 室
或朝の槍ヶ岳	油 - 25	足立源一郎	集 会 室
北穂高主峰	油 - 25	足立源一郎	談 話 室
槍ヶ岳	油 -P 8	足立源一郎	集 会 室
タンボチの僧院	水彩 -4	清野 恒	松本アルプス山岳館
シェルパニの親子	水彩 -4	清野 恒	松本アルプス山岳館
冬の山 (清太山)	墨 絵	近藤 茂吉	松本アルプス山岳館
ブカヒルカ・ノルテ	水彩	渡辺 九郎	事 務 室
梓川秋色	油 - 12	後藤 三男	談 話 室
旧上高地山岳研究所	版画 -8	松田 敏男	上高地山岳研究所
旧上高地山岳研究所	水彩 -10	松田 敏男	集 会 室
焼 岳 秋 趣	版画 -8	鈴木 正俊	集 会 室
ナムチャバルワ峰暮色	油 -10	神原 忠夫	談 話 室
白馬雪景	日本画	丸山 晚霞	談 話 室
上 高 地 秋 景	油 -F20	後藤 三男	上高地山岳研究所

* 他の絵画、写真、省略

土 地 57.91484 m ²	46,297,170	
建 物 432.63 m ²	144,423,000	
建設仮勘定	0	
什器・備品	6,180,232	
敷 金	300,000	
図書出版研究基金 (定期預金・あさひ市ヶ谷)	4,740,000	
長期計画積立金 (定期預金・三菱市ヶ谷)	35,970,000	
海外登山基金 (定期預金・あさひ市ヶ谷)	89,110,000	
終身会費積立金 (定期預金・あさひ市ヶ谷)	7,060,000	
退職給与引当預金 (定期預金・あさひ市ヶ谷)	4,665,000	
その他固定資産合計	338,745,402	
固定資産合計		346,745,402
資産合計		383,540,876
[2] 負債の部		
1. 流動 負債		
前受会費 23 名分	200,000	
預り金 職員に対する源泉所得税その他	849,930	
流動負債合計		1,049,930
2. 固定 負債		
退職給与引当金	4,665,000	
固定負債合計		4,665,000
負債合計		5,714,930
正味財産		377,825,946

注 1) 棚卸資産内訳

種 類	摘 要	金 額
刊 行 物	山岳・山岳総索引・山岳覆刻版等	1,998,905
服飾品・その他	クラブタイ、タイ止等	2,638,123
合 計		4,637,028

注 2) その他固定資産内訳

1. 建物および土地

A 事務所および図書室		
場所	東京都千代田区四番町 5 番 4	
構造	鉄筋コンクリート造、陸屋根、地下 1 階付 5 階建	
	(事務所) 区分所有建物 1 階部分 103.32 m ²	
	宅地特分 1,124.56 m ² × 339/10,000	72,720,170
	= 38.122584 m ²	
	(図書室) 区分所有建物 1 階部分 55.22 m ²	
	宅地特分 1,124.56 m ² × 176/10,000	
	= 19.792256 m ²	
	計 158.54 m ² 宅地特分 57.91484 m ²	
B 上高地山岳研究所		
場所	長野県南安曇郡安曇村 4469 番地 1	
構造	鉄筋コンクリート造 (一部木造) 1 棟	118,000,000
	274.09 m ²	
合 計		190,720,170

2. 什器備品

品 名	取得年月日	取得価格	所在
書庫内移動書架一式、コンパックル	53. 2.10	1,500,000	図書室
応接セット一式 (張布イス、テーブル XLE-30)	53. 8. 2	218,000	談話室

- ・第20回講習「白神の一部を見る」(自然保護専門) 白神山 9月23~25日
- ・森林研究観察山行(自然保護) 未定 9月
- ・海外登山隊報告会:キルギスタン天山山脈隊(青年, 学生) 9月7日
- ・全国集会(自然保護) 山梨 9月17日~18日
- ・海外登山報告会:K2峰(青年, 学生, 海外) 10月5日
- ・第21回講習「教育された指導員を加え実習」(自然保護専門) 木曾駒ヶ岳 10月8~10日
- ・実習, 自然学の説明マニュアル作成(自然保護専門) 10月
- ・実習, 気象観測機器の設置(自然保護専門) 木曾駒 10月
- ・探索山行, 氷河地形を探る(科学研究) 千畳敷 10月
- ・第24回図書交換会(図書) 10月
- ・初級岩登り講習会(指導) 10月
- ・事務局担当者会議(関西支部) 大阪 10月
- ・全国支部懇談会(総務) 10月
- ・新入会員懇談会(総務) 10月
- ・全会員向けイベント(集会) 10月~11月
- ・マラソン大会(学生) 皇居 11月
- ・海外登山隊報告:グレート トラゴン東峰(青年, 学生) 11月2日
- ・写真及びビデオ撮影会(フィルムビデオ) 未定 11月
- ・展覧会(フィルムビデオ) 未定 11月
- ・第22回講習 指導実習と「自然と人」(自然保護専門) 屋久島 11月3~6日
- ・第23回講習「開発行為が誘発した自然破壊の現場で実習」(自然保護専門) 奥多摩 11月12日
- ・第24回講習 緑少年隊を加えたエコツアー 11月20~23日
- ・フリークライミングコンペ(学生) 未定 12月上旬
- ・支部長会議(総務) 未定 12月3日
- ・年次晩餐会(総務) 未定 12月3日
- ・年次晩餐会後の懇親山行(集会) 未定 12月4日
- ・海外登山報告会:ダウラギリ主峰(青年) 12月7日
- ・第25回講習「山の自然学の中級講義」(自然保護専門) 国民生活センター 12月10日
- ・気象観測データの収集, 解析(自然保護専門) 木曾駒ヶ岳 1月
- ・映写会, 保存テープの公開(フィルムビデオ) 1月
- ・八方尾根スキー(集会) 八方尾根 1月
- ・第26回講習「自然保護活動の在り方」(自然保護専門) 国民生活センター 1月21日
- ・第27回講習「日本最南端の原生の山の保護」(自然保護専門) 西表島 2月16~19日
- ・支部事務局担当者会議(総務) 八王子セミナー 2月
- ・青年登山集会(青年登山懇談会) 2月
- ・第23回山岳史懇談会(図書) 2月
- ・アイスクライミング講習会(青年, 学生) 未定 2月中旬
- ・第26回「山岳図書を語る夕べ」(図書) 3月
- ・第29回この一本展(図書) 3月
- ・古道登山(図書) 3月
- ・新入会員オリエンテーション 3月
- ・山岳スキー講習会(指導) 未定 3月
- ・第28回講習「山の自然学, 自然保護の講義」(自然保護専門) 国民生活センター 3月11日
- (ロ) 研究会
- ・マカルー峰登山研究会(高所登山) 6月25日
- ・雪崩, 遭難対策等の研究会(青年) 2月1日
- (ハ) 講演会・シンポジウム
- ・シンポジウム丹沢の立枯状況調査(自然保護) 秦野文化会館 4月16~17日
- ・山学同志会チベット講演会(高所) 11月26日
- ・第14回日本登山医学シンポジウム後援(医療) 未定 5月27~28日

3. フィルム・ビデオ

フィルム	15点「マナスルに立つ」他
ビデオ	70本

監査報告

社団法人日本山岳会平成5年度の収支計算書, 正味財産増減計算書, 貸借対照表および財産目録を監査し, 正確妥当なことを認めます。

平成6年4月14日

社団法人 日本山岳会 監事 中島 伊平
監事 川崎 巖

(社) 日本山岳会 平成6年度事業計画 [案]

(6.4.1~7.3.31)

1. 登山の指導と奨励に必要な集会, 研究会, 講習会および展覧会の開催

(イ) 集会

- ・新入会員歓迎さくらハイク(総務) 4月10日
- ・第9回講習「氷河期が残したものの価値を学ぶ」(自然保護専門) 秋川丘陵 4月3日
- ・ゴールデンウィーク合宿(青年, 高所) 未定 4月下旬~5月上旬
- ・ネパール森林保全実習のための調査及び氷河期の変化の調査(自然保護専門) ネパール 4月29日~5月8日
- ・森林研究観察山行(自然保護) 未定 4月
- ・上半期支部長会議(総務) JAビル 5月21日
- ・通常総会(総務) 5月21日
- ・第11回講習「自然保護教育」(自然保護専門) 国民生活センター 5月28日
- ・第18回若葉会山行(青森, 集会) 青森 5月28日~29日
- ・大学山岳部積雪期合宿記録集成(学生) 5月上旬
- ・第48回ウエストン祭(信濃支部) 上高地 6月4~5日
- ・フリークライミング集会(青年, 学生) 未定 6月上旬
- ・谷川岳合宿(青年) 谷川 6月上旬
- ・自然を読むシリーズ(集会) 未定 6月
- ・第13回講習「各地研究, 清掃, 指導登山」(自然保護専門) 各地 6月1~30日
- ・現地講習会, 上高地の環境保全と自然エネルギーを考える(科学研究) 上高地 6月
- ・第12回講習「上高地, 横尾, 檜沢の氷河地形と植物を調べる」(自然保護専門) 上高地 6月17~19日
- ・小川山集会(青年, 学生) 小川山 6月下旬
- ・森林研究観察山行(自然保護) 未定 6月
- ・映写会, 保存テープの公開(フィルムビデオ) 6月
- ・写真及びビデオ撮影会(フィルムビデオ) 未定 6月
- ・新会員のための会合(集会) 7月
- ・第14回講習「山の自然学入門」(自然保護専門) 国民生活センター 6月25日
- ・第15回講習「自然保護教育」(自然保護専門) 国民生活センター 7月16日
- ・マッキンリー峰報告会(青年, 学生) 7月6日
- ・第16回講習「白馬山自然学現地講座」(自然保護専門) 白馬 7月28~31日
- ・第17回講習「北ア等の山域で指導実習」(自然保護専門) 北アルプス 8月1日~31日
- ・学生部 青年部 OB 懇談会(青年, 学生) 8月3日
- ・第18回講習「シェラネバダの自然保護活動」(自然保護専門) シェラネバダ 8月13~21日
- ・第19回講習「山の自然学の基礎と自然保護」(自然保護専門) 国民生活センター 9月10日

受取利息	3,500,000	5,000,000	△ 1,500,000
雑収入	500,000	400,000	100,000
雑収入 計	4,000,000	5,400,000	△ 1,400,000
7. 特定預金取崩収入			
当期収入合計(A)	63,070,000	60,870,000	2,200,000
前期繰越収支差額	31,108,516	34,566,328	△ 3,457,812
収入合計(B)	94,178,516	95,436,328	△ 1,257,812

- ・エベレスト冬季登攀講演会(高所登山) 本会 9月17日
- ・講演会「第2回山の本シリーズ」(図書) 本会 10月
- ・シンポジウム、登山における疲労(医療) 本会 11月
- ・資料講演会(資料) 本会 11月
- ・講演会「登山における低体温症、漏水について」(医療) 本会 11月
- ・冬山遭難防止の為に講演会(遭難対策) 本会 11月~12日
- ・講演会「スキー力学のモデル、スキーロボットの実際」 本会 12月
- ・講演会「マッキンリー気象観測報告」 本会 2月

科 目	予算額	前年度予算額	増 減	備考
II. 支出の部				
1. 事業費				
出版費	12,313,000	11,480,000	833,000	
図書管理費	805,000	805,000	0	
調査研究費	2,139,000	1,295,000	844,000	
指導費	965,000	965,000	0	
支部関係費	4,000,000	4,000,000	0	
海外諸関係費	250,000	250,000	0	
山岳研究所運営費	3,000,000	2,900,000	100,000	
海外登山補助費	2,000,000	3,000,000	△ 1,000,000	
その他事業費	3,000,000	3,000,000	0	
印刷・製本費	1,000,000	1,000,000	0	
通信運搬費	5,400,000	4,300,000	1,100,000	
事業費計	34,872,000	32,995,000	1,877,000	
2. 運営管理費				
給料・手当	12,700,000	7,500,000	5,200,000	
文具・消耗品費	250,000	250,000	0	
印刷・製本費	1,500,000	1,500,000	0	
旅費・交通費	1,800,000	1,600,000	200,000	
通信・運搬費	1,600,000	1,200,000	400,000	
保険料	430,000	430,000	0	
修繕費	200,000	2,200,000	△ 2,000,000	
租税公課	600,000	600,000	0	
光熱水料費	500,000	450,000	50,000	
電話料	400,000	400,000	0	
会議費	300,000	200,000	100,000	
什器備品費	350,000	350,000	0	
振替手数料	300,000	300,000	0	
支部運営費	3,500,000	3,500,000	0	
福利厚生費	180,000	160,000	20,000	
事務所管理費	750,000	750,000	0	
その他の管理費	2,300,000	1,120,000	1,180,000	
負担金	135,000	135,000	0	
雑費	600,000	600,000	0	
管理費計	28,395,000	23,245,000	5,150,000	
3. 固定資産取得支出				
什器備品購入支出	0	0	0	
固定資産取得支出計	0	0	0	
4. 特定預金支出				
長期計画積立金支出	3,000,000	3,000,000	0	
退職給与引当預金支出	1,000,000	0	1,000,000	
特定預金支出計	4,000,000	3,000,000	1,000,000	
5. 予備費				
予備費	1,500,000	1,500,000	0	
当期支出合計(C)	68,767,000	60,740,000	8,027,000	
当期収支差額(A)-(C)	△5,697,000	130,000	△ 5,567,000	
次期繰越収支差額(B)-(C)	25,411,516	34,696,328	△ 9,284,812	

- 登山施設の運用, その他登山のための適切な事業
 - ・上高地山岳研究所の運用, 資料室開設 5月~10月
 - ・山岳研究所での水車発電の研究, 実験
 - ・受入れ資料保管
 - ・各博物館美術館との提携強化
 - ・海外遠征の記録, 会合, 行事等の記録的フィルムのビデオテープ化による保存
- 山岳遭難の予防とその対策に関する企画及び指導
- 自然保護活動の推進
 - ・自然保護活動の機関紙発行
 - ・鳥海山対策
 - ・定点観測及び海外文献の紹介
 - ・山の自然保護指導者の養成
- 機関紙等の発行
 - ・山岳 89 (1994) 号の発行
 - ・会報「山」587号~598号の発行
- 国内及び外国山岳団体との情報交換
 - ・国内関係団体(日山協, 都岳連, HAT-J, その他)との密接な連絡
 - ・海外登山団体との機関紙及び情報の交換
- 海外登山
 - ・90周年マカール峰登山
 - ・中華民国山岳協会との交流登山 台湾 4月18~23日
 - ・第5次海外登山(マッキンリー気象観測登山隊)派遣 6月
 - ・第6次海外登山(キルギスタン天山山脈隊)派遣 8月
- その他目的を達成するために必要な事業
 - ・山岳図書及び2万5千分の1地図の拡充
 - ・その他目的を達成するために必要な事業を行う

収 支 予 算 書 (案)

平成6年4月1日から平成7年3月31日まで

科 目	予算額	前年度予算額	増 減	備考
I. 収入の部				
1. 基本財産運用収入				
基本財産利息収入	350,000	400,000	△ 50,000	
2. 会費・入会金収入				
入会金収入	4,500,000	4,050,000	450,000	
通常会費収入	45,000,000	43,000,000	2,000,000	
終身会費収入	0	0	0	
会費・入会金収入計	49,500,000	47,050,000	2,450,000	
3. 事業収入				
広告料収入	1,500,000	1,500,000	0	
印税収入	20,000	20,000	0	
刊行物売上収入	1,000,000	800,000	200,000	
その他事業収入	4,000,000	3,000,000	1,000,000	
山研使用料収入	2,700,000	2,700,000	0	
事業収入 計	9,220,000	8,020,000	1,200,000	
4. 補助金等収入				
補助金収入	0	0	0	
5. 寄付金収入				
寄付金収入	0	0	0	
6. 雑収入				

次代に残そう美しい山と溪

書籍受入報告 1994年5月

著 者	書 名	ページ・大きさ	出版元	出版年	寄贈／購入別
牛丸工	内野常次郎小伝：上高地の常さん	100 pp/22 cm	日本山書の会	1993	著者寄贈
八木原暎明・他	大自然を語る：自然と環境と生命(上毛文庫 No. 30)	177 pp/20 cm	上毛新聞社	1994	著者寄贈
高木清和	雷鳥(写真集)	63 pp/21 cm	山と溪谷社	1994	出版社寄贈
村岡博人・編	風来坊人生に悔いなし：麻生武治	79 pp/26 cm	私家版	1994	編者寄贈
浅野孝一	温泉と山遊び：沿線別・首都圏版(学研グリーンブックス)	167 pp/19 cm	学習研究社	1994	出版社寄贈
上野英世	森を楽しむ	255 pp/19 cm	私家版	1994	著者寄贈
上野英世	森を楽しむ：草木の博物誌	224 pp/22 cm	淡交社	1994	出版社寄贈
金子民雄	フランス・キングドン・ウォード(1885-1958) 東チベットの植物探検家の著書目録	143 pp/22 cm	小林書店	1994	著者寄贈
中華民國健行登山會・編	國民旅遊叢書：大台北地区近郊登山案内	208 pp/19 cm	交通部觀光局・台北	1986	中華民國山岳協會寄贈
邢天正	邢天正登山講座(登山系列 M-1)	240 pp/21 cm	戶外生活圖書・台北	1988	中華民國山岳協會寄贈
邢天正・他	登山実用技術詳解	220 pp/19 cm	旭海出版社・台北	1978	中華民國山岳協會寄贈
Geoff Tabin	Blind Corners : Adventures on Seven Continents	196 pp/24 cm	ICS Books	1993	購 入
Stacy Allison	Beyond the Limits : A Woman's Triumph on Everest	282 pp/25 cm	Little Brown	1993	購 入
Joe Simpson	This Game of Ghosts : The Sequel to Touching the Void	319 pp/25 cm	Jonathan Cape	1993	購 入
Helmut Dumlér 他	The High Mountains of the Alps (Vol. 1) : The Four-Thousand-Metre Peaks	224 pp/ 30×31 cm	Diadem Books	1993	購 入

第二回シンポジウム

「山の自然保護を考える」

自然保護委員会

自然保護委員会の「山の自然保護を考える」第一回シンポジウムは、昨年青山学院大学会議室で七十二名が出席



参加者は約 300 人、盛会だった第 2 回シンポジウム

して行われたが、ごく内輪の会という感じだった。

今回の第二回は、四月十六日午後一時十五分から、丹沢山麓・秦野市民文化会館ホールで開催された。まず秦野に集合、震生湖に遊び、渋沢丘陵をハイクングして会場に入るといふ計画が加わり、何とこのコースに一二三人が参加した。会場にはすでに直行した人が入場していて、参加者は三〇〇名を超した。

今回のプログラムのもう一つの特徴は、シンポジウムの前にミニコンサートが加わったことである。岩崎早苗さんとアンサンブル・ベレッツアのマンダリンや、高田和嘉子さんのピアノ伴奏によるシャンソン、カンツォーネは、「ザ・丹沢」のテーマで「エーデルワイス」「山吹く風」「牧野の王」「ふるさとの山」など山に関する歌曲を選曲して参加者を楽しませてくれた。

日本山岳会の「自然を考える集会」という地味な企画にこんな多くの一般参加者があったのも、この人たちに負うところが多かったと思う。ちなみに佐野民枝さん、岩崎早苗さんとその

グループは、常々私たちと山を歩き、自然を語る行事に手を貸してくれている仲間。

午後二時、大森弘一郎自然保護担当理事および沢井政信実行委員長の挨拶で開会された。司会は自然保護委員横山隆氏、丹水会の古谷聖司氏によって進められ、スピーカーは三名で、発言要旨は次のとおり。

■奥野幸道氏（社）日本山岳会

この三十年間の丹沢の変貌をスライドで説明。スライドは塔ヶ岳からの霊峰富士、南ア、塔からの江ノ島、三浦半島などの美しい展望、そして丹沢山の元気なブナ、堂平の美しいブナ、鍋割山荘裏の立派なブナ林が写し出されたが、同時に大山の白骨化したモミ原生林、蛭ヶ岳直下のほとんど枯れたブナ、檜洞丸の倒されたブナなど痛ましいスライドもあった。

また、昭和十四年当時の素朴な尊仏小屋や、今は名前のみ残っているありし日の一本松など古い貴重なスライドと併せて、花立直下の階段と両側の植樹の立ち枯れの無惨な姿や、塔ヶ岳直下の幅広い立派すぎる階段風景など六十点におよぶ映像による訴えは、どんな言葉よりも胸を打つものがあった。

■森美文氏（日本自然保護協会）

丹沢とつき合って二十五年以上になる。その頃と比べるとたいへん変わっ

たと思うが、ここでは丹沢にこだわらず、日本人の自然観について考えてみたい。日本は土地、気候とも恵まれているので、自然に対して無頓着で、自然を維持するためにはある程度人間が関わらないといけないという意識に欠けている。「水に流す」「湯水のように使う」のように、自然をケアするのにお金がかかるという意識がない。良質の水を確保するには結構お金がかかる。開発について、大規模はまずいがほんの一部なら、という話がある。だが、「ほんのちょっとだけ」なくなることとがある。山にゴミが増えているという。空き缶のプルリング、吸い殻、飴やガムの包み紙、これらは意識的に落としたものではないと思うが、二十数年前はこういうことはなかった。缶入りの飲み物も過剰な包装もなかった。ライフスタイルの変化がゴミを増やしている。

また、自然に還るからといって意識的に捨てられる生ゴミが、野生動物の餌付けとなって生態系に影響する。標高の高い所では、し尿は低温ではバクテリアの活性も低くそのまま残ってしまう。ヘリコプターで下ろすしかない。「踏みつけ」は大倉尾根でも分かるように、たくさんの人が入ると地面が硬くなり、やがて削られ、雨が降るとぬ

かるみ、登る人はそこを避けるから裸地が広がる。予防のため木道を作ると味気ないというが、自然をケアするためにはある程度やむをえないと考える。自然を求めて山へ行き、リフレッシュして恩恵を受けるわけだから、やはり恩返しをすることは必要だと思う。

■並木裕之氏(神奈川新聞社)

神奈川生まれだが、三十六歳まで丹沢に登ったことがない。去年神奈川新聞で「丹沢」を半年間連載して初めて登った。主としてブナを担当したのでブナに絞って話をする。

堂平で非常に美しいブナ林が残っているのを見た。次に蛭から丹沢山の主脈両側を見て驚いた。焼き畑の跡のような立ち枯れ、樹齢数百年のブナが転がっている。大山も白骨化したモミ、富士の南に延びている愛鷹山系の越前岳も豊かなブナがあったそうだが、私が登ったときは枯れ木山であった。なぜ南かというと、海風に面し、東名高速道路が走っている。風が吹けば当然排気ガスによる酸性雨、酸性霧が斜面に当たる。それと鹿の食害、若い苗木を食べるので後継樹が育たない。ブナに象徴される丹沢の自然破壊をくい止められないか。現状まできたブナは人間が手助けしない限り再生はない。自然保護団体と行政が一緒になってブナを育てるために投資する。例え

ば草木の低温貯蔵植栽法などを進める。単に聖域化するのでなく、弱った自然を人間が助けなくてはいけないというのが、取材に当たった私の感想である。

× × ×

以上の発言を終えて、出席者からオーバークースや環境アセスメントなどについての提言、富士山での取り組みや山小屋からの自然保護についての報告など、多くの発言が活発に行われ、午後四時三十分を終了した。

一般参加者の方はこれで散会したが、丹水会の五十名は西丹を目指して中川温泉へ、自然保護委員会を中心とする東丹組の約三十名は丹沢ホームに向かい、翌日丹沢登山、森林観察とそれぞれの山行を楽しんだ。(國見利夫)

森林観察・森部会

東丹沢県民の森

一行八名は、地元小田原市の森林インストラクターの本間真講師から「東丹沢の森」について説明を聞き、八時半出発。宿の裏手にあるモミ、ツガの原生林へ入る。急傾斜地は高木がうつそうとしているが、下部にはアセビ、シキミがまばらに生えているだけで、下草はなく、土の露出が目立った。ニホンシカによる食害であろう。

一時間後には、コースのほぼ全域が見渡せる峠に出た。一面スギ、ヒノキの植林地に行く。獣害防止柵が一部破損した周辺は、若木の皮がはがれ、枯れたものや、やがて枯れそうなのが多数ある。獣と樹と人の共存のむずかしさを考えさせられた。

ケヤキ林十二ヘクタールは急峻な地で芽吹きはまだだ。まばらな大木の間、約一メートル高さの苗木が植えられていた。それぞれ径三十三センチメートル、高さ一・五メートルぐらいの円柱状に金網で囲ってある。

無人雨量観測所で小休止のあと、急坂を下り、布川をはさんだ対岸の考証林へ渡る。考証林は、自然林としての条件を備えており、学術的に貴重であるところから指定された。約三十九ヘクタールの県有林である。現在では一切の手入れが行われておらず、自然のままに管理されている。高木はモミが主で、径一・七メートル、高さ四十メートル、樹齢二五〇年(推定)とみられ、その他にケヤキ、ツガ、スギなどが見られる。

今回は人間の影響を背景にした植生の特色を学び、午後二時帰着。(牧内薫)

平成六年度支部長会議

ブロック別九十周年行事などを検討

総務委員会

五月二十一日、総会に先だって、大手町のJABビルで平成六年度の支部長会議が開催された。支部からは北海道ほか十九支部長が出席し、次の議題について協議された。

一、マカルー登山隊一九九五遠征について 重廣常任評議員説明。

二、九十周年記念式典開催と地方支部ブロック別案について 小倉理事説明。九ブロック案が示された。

三、全国支部大会について 関西支部担当で十月氷ノ山で開催予定。阿部支部長から説明。

四、平成六年度支部事務局担当者会議(青登懇)について 中川理事説明。

五、ルームのリフォームについて 中川理事説明。

六、その他 マカルー登山等九十周年行事に係わる合同募金について 中村副会長説明。

今年もさよならで会いましょう

■東西南北■

ヘディンの世界・西藏縦断の旅



増田昌士(司)

崑崙・西藏にロマンを感じる年代であるが、ヒマラヤ各山群やカラコルム、中国西域を点と線で結び、歩ききった今も、その間に存在する広大な西藏高原への思いは断ちがたかった。
青海湖より崑崙を越え、転じて祁連山を越えて敦煌に——続いてチョモラン

①新蔵公路(叶城—獅泉河から旧道—
広大な西藏を4WDで走破する。

マBC—ラサ—カトマンズの中尼公路を走って終りに思ったが、若き日に読んだヘディン、スタインなどの古典探検記や、仏法求法の僧たちの苦難の潜人記に血をたぎらせた青き日の思いは、アクサイチンやチャンタン高原を歩き、聖山カイラスを拝し、五体投地をせずして、西藏の大地は分らない。落日に急かされる思いと、点と線から面を楽しむのが年相応と決めた。

未開放地区(中印紛争地の阿里地区は厳しい)の情報乏しく、近年の個人潜入記は部分的で、古典探検記同様に、読者に想像と読後の夢を与えるものの、その報告様式から新しい資料との照合は難しい。唯一の参考は八五年の日中合同ナムナ二峰登山隊報告書であった。

八月三日、東京発、途中ウルムチで天山に体調調整のトレック、喀什では登山協会への挨拶と食料調達をして、十日に叶城に入った。「三八五キロ」
八月十一日、西藏へ出発、軍のトラック隊もいっせいに長蛇に崑崙に向け走り込む。砂煙は高く広がり、遥かパミールの白い山波を曇らせる。アカズ峠

普蘭(ラサ)を崑崙越えし、アクサイチン高原から獅泉河—カイラス—ヤルツァンボ河と印度・ネパールヒマラヤの北縁を走るルート ②獅泉河から新西藏公路(獅泉河—尼瑪—那曲—ラサ)をチャンタン高原の湖沼地帯を東西に走るルート、の二分二季にした。

①の案を法政大学学士山岳会名で年末に旅行代理店日通を経て申請。九三年春に、やっと西藏軍管区の正式許可を得た。点と面では許可条件が違うのだろう。

九三年夏、東西縦断三二〇〇キロを三十日間て走破(増田以下五名、車二台)する。七月末出発直前に現地より

崑崙越えが夏期道路工事で毎月一と二のつく日以外通行不可の由。崑崙越えは次の通行日(八月十一日)ということにして、アクサイチンの二日とサトレジ河源流遺跡立ち寄りの計七日間を割愛する。主公路走破はトラブルのない限り可能と、五日遅れの出発と決める。

(三三〇〇メートル)を越え、夕方予定の庫地に。全員好調で再びセクラ峠(四九〇〇メートル)を越え、麻札に向かう。途中工事箇所ので滞り、夜半麻札兵站(三七五五メートル)の門を叩く。「二五九キロ」

八月十二日、昼まで休養。ガイド、軽い高山病。K2周辺に向かう人と別れ、ヤルカンド河を上に向かう。黒峠(四九〇〇メートル)を越え、カラカシュ河に出て州里兵站(三六七〇メートル)に入る。口の中まで灰色の砂の国だ。「二二五キロ」。この二日間はやつくり上る。

八月十三日、ガイド以外は体調良好



実線がヒマラヤに沿った今回のキャラバンルート、走行距離 3356 km

なので、大紅柳灘(四一四五メートル)に上り高度順化する。カラカシュ河は右にカラコルム、左に崑崙の白い連なりの中。黄土色の砂礫の広大な平原は、緩く難境状に上って行く。昼兵站に入り、食後昼寝。「一二七キロ」。

明日より五〇〇メートルの高原に上がるので、夕方、裏山を高度順化のために登る。各自の体に応じて、一〇〇メートル差内の行動をする。足下のカラカシュ河が一条の銀線を引いて、夕暮れの崑崙に消えていく。

八月十四日、高原の登り奇台大坂(五一〇〇メートル)はジグザグの急坂、4WDも呼吸は荒い。峠の展望は南太平洋やタクラマカン砂漠と一味違う感動を覚える。アクサイチン高原だ。北の崑崙から緩いウネリの山波が、南の西蔵高原に打ち寄せ、消えている。白い波頭が三つ、近く白馬のたたずまいが農大・早坂隊の(七一六七メートル)峰と慕土山・慕夜塔格で、天の青、山波の黄土色との天界に、鮮白の点描を引いている。広大な天地だ。距離感を失う。アクサイチン湖畔を古い轍が東に向かっていた。

砂礫の高原は、砂煙は上がるが足元は固く、車は八〇キロで走る。後続車が延着の間に、西の山(五三九〇メートル)に登る。道を外れると不安なので下車する。カラコルム峠を覗きたい

一心で、足は軽い。カラコルムも西蔵に近づくにつれ、柔らかな山容となり、やがて高原に同化する。ヘディンやスラインも、今私の立つ砂山を歩いていったに違いない。二世紀前のことだが、青天井の下、全くの静寂である。先人の足跡を思い、一人佇む。この感動は、山の頂きの動にあたる静ではないか。やけに紫煙がうまい。

この地は二十数年前、中印砲火を交えた国境紛争の地、今カラコルム峠近くに中国軍のレーダー基地があり、立ち入り禁止である。許されるときはカシミールから先人のように北に越えてみたい。今は砂の盆景のようなアクサイチン高原であった。

八時に出て夢中の一日で、バンゴンツオ湖の北トオマ兵站到十九時着、本の走行距離は「三六七キロ」。

八月十五日、トオマ休養。周辺を散策した。「五六キロ」

八月十六日、湖東を回って、昼前に日土兵站(四一七〇メートル)に入る。三十九度、暑い汗はない(湿度一〇パーセント)。班公錯は草原の湖といわれ、東西に長く、西半分は印度領になる。最奥地だが、定住民が農耕をしている。水面に遠くカラコルムの白い連なり、緑の野菜と赤や黄の明るい花々が空と水の青にとけて、まさにシャンバラ(仏教界の理想郷)だ。一休みし

て西二〇キロにあるチューレン・コンマ遺跡を見に行く。古来からの良地なのだろう。「七二キロ」

八月十七日、拉梅拉で広大なアクサイチン高原が終わる。三時間で西蔵阿里地区の中心獅泉河(四二二二メートル)に着く。ここで出迎える西蔵側のクルーと交替、軍の許可書とビザのチェックを受け、久方振りにホテル泊まり。夜、新疆クルーの送別パーティー。「四八キロ」

八月十八日、ホテル前の道を東に向かう新西蔵公路は、昨日までの新蔵公路と同様軍事道路であるが、今やラサや青海との物流の要衝にある。街中のウイグル人の屋台で、シシカバブにビール、うまい!! しかし街角には私服



独特の山容をもつ聖山カイルス (6656 m)

の公安の眼が光っている。

八月十九日、西へ流下するインダス河(下流二〇〇キロ先にラダツクのレー)と別れ、東の源流に。我々の向かう旧道は、年々荒廃しているようだ。右にアイーラ山脈、左のカンティセ山脈の間は、カラカシュ谷の平原より広く長い。カイルス山へ真っ直ぐ二〇〇キロも緩く上がる。シュンサ(四四〇〇メートル)でキャンプ。夕刻までの三時間を車一台で、運転手が昨夏見たという西方アイーラ山中の遺跡を見に行く(帰国後に朝日で二度紹介された東嘎遺跡の方位であるが、全く不明)。当初計画のサトレジ河源流遺跡やゲゲ王国も、当地辺りから入るのだが、日程がなく残念である。「九一キロ」

八月二十日、川辺に薄氷が光る。湿度一三パーセント、単調な大平原を走る。ガルワールが見えてきたが、後は砂煙で見えない。暫くして前方に、独特の山容のカイルス山が見えてきた。スピードを上げる。巡礼のベースのタルチェンに着く。全員西蔵人で五体投地を繰り返す。ネパール人も多く、マナサロワールとマバム・ユムツォ両湖畔を行く巡礼者の連れを見ながら、昼食をとる。

ヘディンも同じ思いで眺めたカイルス(六六五六メートル)は、聖山らしいたたずまい。両湖の青さはまさにト

ルコ石であった。遠くインドとネパール・ヒマラヤの白いさざ波の連なり、カイラスに綿雲が巻く以外は青天井だ。アクサイチンと違い、聖域の展望である。両湖からナムナニ峰の西下を回ってカルナニ河に下り、普蘭(三八五三メートル)に着く。久し振りに、四〇

俳句

雪山

小林碧郎

梯姑咲く漢字の邦の街愉し

梨咲いて桃里武陵の名を負へる

雲海に南湖大山燃えて立つ

石楠花に褶曲しるき峰並ぶ

残雪に登路刻むや星がらす

(訪台親善登山)

九四・四・十六(二十三)

・会務報告

五月定例理事会

日時 五月二十日(金) 十八時三十分

二十時三十五分

〇〇メートル以下の下界の招待所で安眠する。〔二六八キロ〕

八月二十一日、休養日。近くの遺跡とネパール境のコジャルナートのゴンバを訪れる。アビ峰や印度ネパール国境の山々が美しい。谷間の村々も豊かに見える。普蘭は印度ネパールからのカイラス巡礼者の出入地で、村の中心の丘の上に、監視塔が睨んでいる。

八月二十二日、今日からラサに向ける。ヤルツアンポ河下り。バルガまで往路を戻り、マナサロワールの北縁を右へ、水の豊かな大草原の広がりを行く。これまで見なかった野生の山羊の群れが、東端のマユム・ラまで見られた。馬の群れは車と併走することたびたびである。しかし大動物の存在に、その天敵もいた。昼寝の狼か? 車の前に飛び出し、逃げていった。動物たちを楽しみ、峠を下るとヤルツアンポ源流だ。渡河に成功し、桑求張(四八五〇メートル)でキャンプする。〔二五七キロ〕

場所 日本山岳会会議室
〔出席者〕藤平会長、嶋原、中村各副会長、小倉、大倉、大森、村井、山口、片岡、南川、松浦、伊藤、水野、渡辺、溝口、中川、山本、大谷各理事、中島、川崎各監事、宮下、重廣各評議員

八月二十三日、ヤルツアンポの河原は広いゴロで、水流はどこにあるか、右方遠くに、ヒマラヤの連山を見て走る。親子づれ三羽の鶴を見る。仲巴(四五〇〇メートル)でキャンプ。〔二二三キロ〕

八月二十四日、ヤルツアンポ河沿いの道は、支流の渡河や砂地に足を捕られ、ヒマラヤの観賞もままならぬ。左に白帽子のルンポ・カンリ(七〇九五メートル)が見えている。薩嘎兵站からは良道となる。夕方に時雨で、桑々招待所に入る。〔三三三キロ〕

八月二十五日、ラサに近づくに連れ、モンスーンのためヒマラヤには黒く重い雲がかぶり、ヤルツアンポを越えてくる雲量も多くなった。農村地に出るラ孜の渡しで一般道路となり、日喀則賓館に入る。〔二九二キロ〕

八月二十六日、江孜浪卡子ラサと走り、暮れなぞむラサ市街へ急ぐ。白亜のポタラ宮を見て、全員無事の

〔委任〕南井、堀井各理事、斎藤、湯浅、西村、神崎各評議員
◆議事
〔審議事項〕
一、マカルー峰九十周年合同募金委員会(案)について 小倉

ゴール・イン。〔三四五キロ〕
東西縦断の旅は、後半の午後の増水と渡河のタイミングに幸運があった。全走行三三五六キロであった。

× × ×
この旅は西蔵の公路を弓とみて、南のヒマラヤ沿いの弧の部分を走破したが、九四年の今夏は、その弦に当たるチャンタン高原と、その間に連なるカン・テイセ山脈、すなわちヘディンの歩き名付けたトランス・ヒマラヤを、ヤルツアンポ側の薩嘎から南北に横断してチャンタン高原に出る。多くの湖沼地帯を回って新公路を東へ走り、安多で青蔵(西蔵・青海)公路に入る。唐古拉山を北に越え、長江源流を渡る。再び崑崙東端を越えて青海省入り、青海湖を経て西寧・蘭州に至る、三五〇〇キロの旅になる。四度の入蔵で、全西蔵の走破を終わることになる。
我々は今夏の旅に向け、すでに準備に入っている。

委員長・藤平会長、副委員長・中村純二、同・小倉茂暉、常任委員・伊藤敏他十八名、委員・野田四郎他十九名、事務局長・石橋正美、承認
二、支部長交替について 小倉
信濃支部 田中弘美(前任・赤羽孝一

(郎)

山梨支部 古屋学而(前任・大沢伊三郎)

承認

三、東海支部寄託図書「山岳」目録について

承認

通巻一四六部を寄託した。

承認

四、農大「ツインズ」登山隊より都岳連への推薦状について

承認

五、財日本レジャースポーツ振興協会より後援依頼について

承認

シンポジウム・パート2として、国内六か所の列島リレー方式で実施。後援をお願いしたい。

承認

六、小学館発行「サライ」誌七月号への写真掲載依頼について

承認

尾瀬特集号に三十、四十年前の写真の複写許可の要請があった。作業には武居会員が当たり、出典は日本山岳会を明示する。

承認

七、会報「山」の印刷所の変更について

承認

八月号から技報堂を双陽社に変更する(価格は三年間据え置きを条件)、なお「山岳」は従来どおり。

承認

「報告事項」

一、マカール一九九五登山隊について

小倉・村井

四月十五日に小倉・村井両名が読売新聞社を訪問し後援を依頼したが、現在の経済状態から費用の援助は困難、

登山隊事務所については、七月から可能性があるが、選挙があれば八月になる、との返事があった。

二、ルームのリフォーム

中川

施工業者には、合見積をとり検討の結果、ヤマギワ電機に決定。常務理事会で承認された。

三、マッキンリー気象観測機器設置登山隊

科学委員会・大倉

中村、柳沼ほか学生六名で六月四日出発予定。新しい観測装置三点設置。

四、外国人登山者の増加と遭難

小倉

北アルプスに外国人登山者が急増し、遭難も発生している。山岳保険加入等について日山協と共同で検討する。

五、藤平会長から立山マウントピア計画について

この計画は「北アルプスの乱開発につながる、立山カルデラに人を入れるのは危険だ」と二人で反対しているが、三月県議会でゴーサインが出された。

委員を引き受けたのは、県に利用されるのは覚悟の上、既成事実を積み上げる県のやり方にクギをさすのが目的だった。私は今でも、この構想を了解していない。

六、訪台親善登山と収支

山口・大谷

登山は無事終わった。費用の残金は今後の日台交流基金としてJACの口座に留保した。

七、山研について

溝口

六月三十日、自転車振興会の最終検査(調査)が行われる。

八、連絡委員会について

中川

委員の出席が悪い。各理事も経過を知って検討の上、新委員の派遣なりを考えてほしい。

九、五月二十一日支部長会議

小倉

議題①マカール登山隊一九九五②九十周年記念式典開催と地方支部プロジェクトの件。合同募金 ③全国支部懇談会(関西支部担当で十月開催)④平成五年度支部事務局担当者会議(青登懸)⑤ルームのリフォーム ⑥その他

十、九十周年に続く百年史の編纂について

小倉

①文章による百年史②望月、織内、松丸会員を顧問、南井理事担当 ②映像による百年史③羽田会員が編集に当たり、山口理事担当 ③データバンク③三上、菅田、鈴木、石田会員を委員として、山口理事担当。

十一、総会の議事署名人は山口・水野会員に依頼

十二、ヤルツァンボ科学探検隊のカヌー遭難事故について、中村進会員から文書で経過説明され、村井理事から補足説明がなされた。

十三、西堀記念館の建設

藤平会長

滋賀県湖東町長から電話で依頼があったが、町おこしに使われては困るので、主題が「探検と登山」であるなら

その目的で進めてほしいと要望した。

「委員会報告」

●自然保護委員会

四月十六日、秦野

の自然保護シンポジウムは参加者二十七名。当日午前の渋沢丘陵ハイイク、午後のシンポジウム、翌日のブナ枯死の状況調査と三鬼を追ったため、内容が稀薄になったきらいがあったが、難しいテーマをこなすことができ、まずまずの成功であった。

●自然保護専門委員会

四月二十九日

五月七日、ネパールでラリグラスの植林実習を行い、多くの収穫があった。

●総務委員会

五月二十一日

支部長会議、総会および懇親会。

●資料委員会

①武井清会員(東京在住、アトリエは山梨県白洲町)から絵画寄贈の連絡をいただいた。②滋賀県ダイニックスアストロパーク天研館から貸し出し要請のあった「ナムチャバル」写真・写真パネルは四月十一日、五月三十一日に展示し、好評とのこと。

③四月二十九日、三十日、上高地山研オープンニング、資料室をオープン。

●フィルムビデオ委員会

六月二十五日、二十六日、フィルムビデオクラブと共催で「写真撮影会」を開催予定。場所は八ヶ岳・天狗岳周辺、黒百合ヒュッテ(宿泊)

●新入会員承認

加藤功一他三十二名。復活二名。

INFORMATION



◆ビールパーティーのお誘い

集委員会

例年のとおり楽しい会を開催します。

日時 九月三日(土) 午後五時より

場所 山岳会ルーム

会費 二、〇〇〇円

申込 不要 当日おいでください。

◆平成六年度自然保護全国集会

自然保護委員会

本年度全国集会是、南アルプスの山ふところ早川町で開催します。

日時 九月十七日(土)～十八日(日)

会場 山梨県南巨摩郡早川町大原野六

五一 ヘルシー美里

〇五五六一四八二六二二

会場は転付峠入口に近く、廃校

を利用した清潔な宿舎です。

テーマ 「山の自然保護を考える」

①富士山・南アルプス

②各地の山の状況を語る

集合 ハイキング参加者は、十七日、

身延駅改札口十時十分集合。十

五分発のバスに乘車(身延山久遠寺奥ノ院から赤沢宿までのハイキング)

会場受付 十五時より

日程 十七日十八時から懇親会。十八

日午前中討議、昼食後まとめ。

十四時三十分終了。

会費 一、〇〇〇円(一泊三食、懇

親会費等)

申込 宿泊予約のため八月二十日まで

に氏名、会員番号、生年月日

(保険加入のため)、ハイキング

参加不参加を記入し、はがきで

〒一五八 東京都世田谷区等々

力五二二二 横山隆宛

◆探索山行

「氷河地形を科学する」

科学研究委員会

紅葉のはじまった木曽駒ヶ岳で、氷河地形の観察・勉強会を行います。初

日は木曽駒ヶ岳の氷河地形についての

講演会、翌日は中岳、本岳を経て濃ヶ

池(埋積カール湖)、将基頭山往復後、

大関カール(駒飼の池カール)経由、

千畳敷カールから下山する予定です。

日時 十月一日(土)～二日(日)

場所 木曽駒ヶ岳・宝剣山荘

講師 東京学芸大学名誉教授

有井琢磨会員

日程 十月一日十七時、宝剣山荘集合

(ロープウェイ千畳敷カール駅

から約四十分) 講演および懇親会

十月二日 早朝出発 カール地

形を見学、二時頃、千畳敷駅で

解散。

会費 JAC会員九、〇〇〇円 非会

員一〇、〇〇〇円(宿泊費一泊

二食、懇親会費、傷害保険)

交通費、昼食代は別。

申込 はがきに住所、氏名、電話番号、

会員番号(または非会員)を明

記の上、八月二十五日までに日

本山岳会事務局まで。定員三十

名、先着順で締め切ります。参

加者には後日詳細案内書を送付

します。

●山行に先立って、有井講師による山

岳氷河地形の勉強会を行います。山行

不参加の方も聴講可、参加ください。

九月二十二日(木)午後六時半

より山岳会ルームにて。

問い合わせ先 〇三二五二八五一

一一(内線二五二六)国立予

研・北野まで。

◆東北地区集会・七ツ森

宮城支部

宮城支部とっておきの七ツ森を紹

介します。ふるってご参加ください。

日時 九月十日(土)～十一日(日)

場所 宮城県大和町・七ツ森(五万分

の地図「吉岡」)

集合 九月十七日『みちのく路』

(志田郡鹿島台町広長字石川原

四番八六七

〇三二九一五六一五五一)

日程 十日 みのく路で懇親会・泊

十一日 懇親山行

①主峰コース 宮床登山口一姥

坂一亀の子岩一国見崎一笹倉山

(登り約一時間)

②三山がけコース 信楽寺一お

どろき展望台一撫倉山一大倉山

一蜂倉山

③遊歩道コース 信楽寺一原阿

佐緒記念館

人員 六十名

参加費 一〇、〇〇〇円 参加申込者

で当日不参加の場合キャンセル

料を申し受けることがあります。

申込 九月一日までにはがきで左記へ。

〒九八二 仙台市太白区八木山

南五二二 JAC宮城支部

事務局・千石信夫宛

問い合わせ先 千石信夫 〇二二

二四三二二〇七一(自宅)

佐々木豊喜 〇二二二二八

一〇三五(自宅)

◆全国支部集会

関西支部

期日 十月十五日(土)～十六日(日)

場所 兵庫県ハチ高原と氷ノ山

会場 ハチ高原・パークホテル白樺館

参加費 一五、〇〇〇円(宿泊費 懇親会 翌日の弁当 バス代)

テーマ「自然を考える」加藤文太郎とブナの木

日程 十五日 受付十四時 講演 十六時 懇親会十八時二十時

十六日 水ノ山登山 八時出発 他、但馬の祭典参加

申込 九月十五日までに参加費を(日本山岳会関西支部 振替番号

〇〇九三〇一六一五五九五〇) お送りください。入金を確認次第詳しい案内書を送付します。

●詳しくは次号に。

◆「山の高さ」(鈴木弘道・著/日本測量協会) 初版本の正誤表のお知らせ

同書の初版本を求められた方は、一九九四年一月一日付け最終正誤表を本会事務局に置いてありますので、ご利用ください。第二版は訂正済みです。

◆上高地山岳研究所での新しい試み

山岳研究所運営委員会

自然保護専門委員会

新しくなった上高地の山岳研究所にテストケースとしての新しい企画が加わりました。いま自然保護専門委員会で行っている、自然保護指導者養成のための「山の自然学現地講座」で勉強した、できたてのボランティア・レンジャー(つまりは素人)が、八月一杯

一人ずつ交替でつめています。上高地周辺の自然について、一緒に歩きながら、覚えての自然学をお教えしようというのです。(自然解説員・イン

タープリター・エコツアーガイド)どうか彼らの力試しをしてみてください。

ご希望の場合、山研に事前に申し込まれるか、当日、本人に話されるか、どちらでも結構です。費用は無料です。

◆平成六年度・年次晩餐会で写真展を開催、一般会員より作品公募(予告)

今年の年次晩餐会(十二月三日)にはイベントとして写真展を開催します。展示は会員からの一般公募作品といたしますので、アマ・プロを問わず多くの方の参加をお待ちしています。

公募締切 九月末日まで

展示仕様 半切(三五六×四三三ミリ) マットパネル仕上げ

展示点数 約八十点(応募作品は選考調製し、展示プリントはすべて一括してプロラボで処理します)

公募要項 制作費など次号でお知らせします。ただし、今回の展示はできるだけ年次晩餐会に出席できる会員の作品を優先させていただきます。

◆マカルー登山隊一九九五の事務局開設!!

来年のマカルー登山に向けて、七月九日より事務局を開設します。

場所 〒一〇三 東京都中央区日本橋小舟町七番二号 読売日本橋別館五階

TEL 〇三―三二四九―五一八六 FAX 〇三―三二四九―五一二六

事務局員 滝澤ちよ子(一〇三三八)勤務時間 十時―十八時

・ルーム日誌

(5月)

9日 図書委員会 連絡委員会

10日 二火会 アルパイン・スケッチクラブ

11日 山研委員会

12日 学生会 科学委員会

13日 アルパイン・フォトビデオクラブ

16日 総務委員会

17日 フィルムビデオ委員会 自然保護専門委員会

18日 三水会 リフォーム委員会

19日 学生会 青年部

20日 理事会 マカルー小委員会

23日 資料委員会 アルパイン・スキークラブ

24日 自然保護委員会

26日 学生会 リフォーム委員会

30日 集委員会

31日 海外委員会

5月来室者49名

■会員異動

▼物故 本吉博(九〇六八) 5・12・25 堀田恵(一〇八九八) 6・2・21

島村為男(二六七九) 6・3・8 竹田暉(七四三六) 6・4・17 佐藤富

佐雄(五八四三) 6・4・21 ▼退会 清野正二(四八九九) 秋元常夫(二六二三) 新谷斐克(九九二八) 松井

淳子(一一二五六) 石田登規男(三七〇三) 梅棹マヤオ(一一三三)

河原正徳(八六九二) 以上6・4・30 中村一男(九〇五三) 6・5・8 松

島俊裕(一一三六六) 6・5・12 女子登山クラブ(六七五二) 6・5・19

入江睦子(二〇〇一三) 6・5・23 白井幸也(二〇七八九) 6・4・25

中川義夫(四七八七) 6・5・26 木久男(九四八五) 6・5・26

日本山岳会報 山 590号

1994年(平成6年)7月20日発行

発行所 社団法人日本山岳会

〒102 東京都千代田区四番町

5-4 サンビュウハイツ

四番町

TEL 東京(03) 3261-4433

振替口座 東京 3-4829

発行者 藤平正夫

編集人 伊藤 敏

印刷 株式会社 技報堂